

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- ① 一括質問一括答弁方式
② 一問一答方式

質問件名 コロナ禍でも市民が安心して暮らすために

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

2020年1月に日本国内で初の新型コロナウイルス感染症例の発生が報告されてのち、危惧された感染の拡大が押し寄せ、緊急事態宣言の発出を繰り返し1年半が過ぎました。この間小平市でも感染予防や感染者への支援、また低迷する経済活動により休業や離職など経済的に困窮する人たちへの支援などできる限り取り組んでいるところです。しかし、8月に入り緊急事態宣言中にもかかわらず、市内の患者数が1日に約40人を超えるなど、感染拡大が止まりません。保健所の業務は逼迫し、医療体制も十分でない中、市民は生活の不安やストレスを抱えています。コロナ禍、少しでも安心して暮らせるようにしていくため、以下質問します。

- 1, 小平市の患者数が急増した理由についてどのように認識していますか。
- 2, 市民から、自宅療養する際の困りごとなどの相談が寄せられていますか。
- 3, 感染者数が増え、中等症の方までが自宅療養を余儀なくされています。感染した方や家族への対応について伺います。
 - ① 病床の確保と宿泊療養施設の設置が急務と考えますが、ご見解は。
 - ② 訪問医療やオンライン診療について、医師会との連携が必須です。市の働きかけと検討の状況は。
 - ③ 重症化しても入院先が決まらず、自宅での療養を強いられ命を落としたり、救急車で何時間も待たされるという報道があります。小平市でも酸素ステーションなどの施設が必要と考えますが、ご見解をお示してください。
- 4, コロナ禍で、DVや虐待、生活困窮など先行きの見えない不安やストレスから自殺をする女性や若者が増えているとの報道があります。小平市の状況と、今後どのように自殺予防対策を行っていくのかについてお示してください。
- 5, 感染拡大に伴い、市職員の感染も増えています。職員の安全確保と業務の遂行をどう担保していますか。
- 6, コロナ禍においては、感染症予防対策とともに子どもたちの育ちと学びを保障しなければなりません。これまでとは違った環境の中で、公立小・中学校においてどのような取り組みを行っていますか。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和3年8月30日 小平市議会議長 殿 小平市議会議員 氏名 さとう 悦子

受付番号【 】

26	25	24	23

-(/)